

IV あとがき

令和6年度 施策調査専門委員会の検討内容

本点検結果報告書を作成するにあたり、施策調査専門委員会で議論した内容や意見等について、P12-1～12-3 のとおりまとめる。具体的な検討状況については、県水源環境保全課ホームページに掲載されている。

(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/cnt/f7006/p23138.html>)

●主な議題・議論

開催回	開催日	主な議題・議論
第 67 回	R6. 4. 24	<p>最終評価報告書暫定版概要版について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別対策事業の事業費について、原案では各事業を円グラフで示していたが、二次アウトカムの項目に合わせて表形式にし、経済的評価と併せて表記していくこととした。 ○ 森林、水関係の評価の冒頭に、報告書のまとめ部分を抜粋して載せることとした。 ○ シカの生息範囲については、区画法ではなく糞塊調査の図とし、箱根への広がり分かるように記載することとした。 ○ 水関係については、評価項目の順番を水質、地下水、生態系、アオコの順に入れ替えた。 ○ 河川事業については、改修前後の写真を入れ、生態系調査については結果を示すこととした。 ○ 経済的な評価については、実施概要を削除し、説明文に事業費を追加し、費用対効果についてわかりやすく修文を行った。 ○ 県民会議の役割・機能については、森林や水の評価項目より前に持っていくこととした。 ○ SDGs の表記を表紙に入れることとした。また、水と森だけでなく、パートナーシップについても入れることとした。 ○ 蒸発散の解析結果の図については、最終評価報告書暫定版に間に合わなかったが、重要な成果であるので、注釈をつけたうえで記載することとした。
第 68 回	R6. 10. 21	<p>1 令和5年度モニタリング結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林のモニタリング調査結果について、これまでのモニタリング結果を活用して、丹沢の土壌侵食シミュレーションを再検討した。 ○ 森林生態系効果把握調査について、野ネズミの糞調査の結果、多種の植物を摂取していることがわかり、生物多様性を高まっていることが示唆された。定点カメラによる調査では、箱根地区でのシカの雌の撮影頻度が上がっており、定着が懸念されることが報告された。 ○ 河川モニタリングについて、令和5年度の相模川における調査結果が報告された。窒素やリン等は改善ないし横ばいの傾向であった。環境 DNA 調査では、捕獲調査では判別できないスナヤツメの生存域が確認されるなどの成果があった。河川整備事業実施後の生物調査については、事業実施後については生物種の増加が認められ、生態系への好影響が想定されることが報告された。 <p>2 令和5年度点検結果報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業の進捗率を基に事業の実施状況について説明があり、概ね順調に実施されていることを確認した。委員会後、各委員が気付いた点などを修正案として事務局へ送付することとした。

開催回	開催日	主な議題・議論
		<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局よりフォーラムで寄せられたアンケート結果等について報告があり、委員からは現場の森林組合から実態の報告を頂いたことが大変良かったとの感想があった。 ○ 施策懇談会の実施について前回の県民会議等での意見を受け、各委員が所属する委員会、作業チームを検討対象とするなど事務局より修正後の実施概要案について報告があった。委員からは、客観的な県民会議の評価の必要性について意見が出た。 ○ 環境課より県内のPFASの状況について報告があり、次回の県民会議に向けて、水道では不検出であった等の情報を追加する意見が出た。
第 69 回	R7.1.14	<p>1 令和5年度点検結果報告書修正案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 11月に県民会議委員に対し意見照会を行い、意見について反映させた修正案について検討した。 ○ 報告書の分量が増えていることから、簡素化を図るため、過年度の事業モニター結果や前年度との総括部分の比較を省略することとした。 ○ 地下水保全再生事業については、県環境課で行っている水質汚濁防止法に基づく常時監視の情報を追加し、情報を補完することとした。 <p>2 令和5年度点検結果報告書概要版案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 11月に行った県民会議委員に対し意見照会を行い、意見について反映させた修正案について検討した。 ○ 年号について西暦を併記することとした。 <p>3 河川・水路における自然浄化対策の推進取組事例集案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和8年度までに河川・水路における自然浄化対策の推進取組事例集のスケジュールを確認し、原案について検討した。 ○ 県民会議で作成するため、事業モニターの意見などを取り入れ、差別化していくこととした。 ○ 生物系の指標について、環境科学センターの知見等も加えていくこととした。
第 70 回	R7.2.20	<p>1 令和5年度点検結果報告書案、概要版案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2月に施策調査専門委員会の修正を反映したものについて、県民会議委員に対し意見照会を行った。特段の意見が無かったが、県民会議への提出について検討した。 ○ 総括において、地下水保全事業の成果を加えることとした。 ○ 地域水源林整備支援における県民会議の意見について、確認することとした。 ○ 河川水路整備支援について、評価結果について、説明を加えることとした。 <p>2 河川・水路における自然浄化対策の推進取組事例集修正案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施策調査専門委員会での意見を反映したものについて、検討した。 ○ 事業効果について、各事業の当初に記載することで、事例集の読者に分かりやすく示すこととした。 ○ 事例集については、来年度の3回目の施策調査専門委員会で中間報告を行うこととした。 <p>3 施策調査専門委員会の次期委員への引継書について</p> <p>4 令和7年度施策調査専門委員会スケジュールについて</p>

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 施策調査専門委員会の次期委員への引継事項及び令和7年度スケジュールについて検討した。 ○ 施策懇談会において、施策調査専門委員会での議論の時間を確保すること、他の作業チーム等との連携について提案があったため、令和7年度において、点検結果報告書の作成手順のうち、2回目の意見照会を省略し、事業モニターチームとの連携を図っていくこととした。 ○ 最終評価報告書の作成に向けて、構成等を検討していくこととした。